

# Richardsonの小説における *un-* 派生語の考察

脇本 恭子

One of the stylistic features in Samuel Richardson's epistolary novels is an abundant variety of negative expressions. Among them is included the addition of negative affixes such as *dis-*, *in-*, *un-* and *-less*, by which new words are produced to convey new meanings and ideas. The present paper aims at exploring Richardson's use of negative prefixes. Our focus here is put on the analysis of "*un*-words." Types and frequencies of the *un*-words examined through the corpus of Richardson's three works (*i.e.* *Pamela*, *Clarissa* and *Sir Charles Grandison*) are shown in four tables. Referring to the word lists in the tables, we discuss how and why Richardson may have tried to create new word forms.

Keywords : 接頭辞, *un-*, 否定, Richardson, 語形成

## はじめに

古くは Ball (1976) の研究, さらには, Ito (1993), 脇本 (2007, 2008a, 2009, 2011) の分析から明らかにされたように, Samuel Richardson (1689-1761) の語彙の多様性は, 接辞の添加や合成語, 臨時語など語形成にその要因が多く求められる。中でも *dis-*, *in-*, *un-*, *-less* など否定の接辞による語彙の増大は注目に値するところであり, 脇本 (2009, 2011) の論考においても考察対象としている。

さて, 脇本 (2009) では, Richardson の最初の書簡体小説 *Pamela* (1740) を, *Pride and Prejudice* (1813) を始めとする Jane Austen (1775-1817) の作品と比較し, 前者が後者に及ぼしたと思われる文体的影響を探った。本稿では, *Pamela* に留まらず Richardson の全作品を資料とし, 接辞は *un-* に的を絞って調査を行う。コーパスを活用して種類や頻度など量的なデータにより分析すると共に, *Oxford English Dictionary* (以下 *OED*<sup>2</sup>) を用いて Richardson に独特な語を吟味することで, *un-* 派生語の特徴を浮き彫りにしていく。

## 1. 事前考察

### 1.1 資料

ここでは, まず分析の資料とする Richardson の作品とその略号, 発行年度を以下に挙げておく。

*Pamela* (1740-41) : *Pam*<sup>1)</sup>

*Clarissa Harlowe* (1747-48) : *Cl*

*Sir Charles Grandison* (1754) : *SirCG*

Richardson の全作品 : *AllRich*

各引用文の出典は Shakespeare Head 版であるが, 電子テキストについては Chadwyck-Healey から提供されているものを利用する。Richardson のコーパスについては, 各作品の初版に加え, *Pam* では第六版, *Cl* では第三版も提供されている。<sup>2)</sup> 本論考では, 便宜上, *Pam* の第六版, *Cl* の第三版, 及び *SirCG* の初版を使用する。<sup>3)</sup>

### 1.2 接頭辞 *un-*

*un-* の使用は, 古英語 (Old English : 以下 OE) の時代に遡り, *OED*<sup>2</sup> に "The prefix has been very extensively employed in English, as in the other Germanic languages, and is now the one which

can be used with the greatest freedom in new formations.” (s.v. *un-*, prefix<sup>1</sup>) と謳われているように、極めて造語力の高い接頭辞である。<sup>4)</sup> 形容詞・副詞や名詞に付けて「否定」を表す “negative prefix” は古来より使用されているが、他にも動詞に付けて「反対」「逆」にする “reversative prefix,” 名詞に付けて「欠如概念、欠性」を示す “privative prefix” に大別できる。<sup>5)</sup> 以下には、AllRich からそれぞれの例を挙げておく。<sup>6)</sup>

(1) a. . . . and are always dress'd and easy, so that no Company find you unprepar'd, or unfit to receive them, . . . (Pam III 228)

b. . . . ; and now turned his eyes towards me, then from me, as if he would unlook his own looks. (Cl V. 212)

c. How Love unmans, and softens! And such a noble fellow as this too! Rot him for an idiot, and an oaf! I have no patience with the foolish duncical dog—Upon my soul, I have not! (Cl VII. 467)

(1a) の *un-* は “not” と同様な働きをしており,<sup>7)</sup> (1b) の “unlook” は “look” と「逆」の動作を示す。(1c) の “unman” は、名詞 “man” から男性らしさを「奪い取る」ことから派生した動詞である。中でも (1b) の “unlook” は極めて稀で、*OED*<sup>2</sup> においても唯一例である。また、Nevalainen (1999: 382) が “Un- forms mostly transitive verbs from both native and borrowed bases.” と指摘するように、この種の *un-* は他動詞を形成するが、ここでは “unlook” が “looks” という同族目的語を取っていることで、さらに特徴的と言える。

さて、本稿では、主に「否定」の意味を持つ (1a) タイプの語を調査し、(1bc) タイプの動詞については考察の対象外とする。但し、(1b) の “unlook” は、動詞では “reversative” の *un-* であっても、分詞形容詞の “unlooked” になると、意味的には “Not looked for; unexpected, unanticipated” (*OED*<sup>2</sup> s.v. “unlooked,” 2.) となり、*un-* が否定の要素を含む “negative prefix” であるので、考察の対象とする。同様に、(1c) の “unman” についても、動詞の場合は考察の対象外であるが、“unmanly” という形容詞は “Not manly” (*OED*<sup>2</sup> s.v. “unmanly,” 2.) で否定の意味を示すので、考察の対象とする。

### 1. 3 *un-* vs. *in-*

*un-* と同じく「否定」の働きを持つ接頭辞に *in-* (1) で始まる語では *il-*, *b*, *m*, *p* といった両唇音 (bilabial) で始まる語では *im-*, *r* で始まる語では *ir-*) があるが、前者が OE の本来語から使用されているのに対し、後者はラテン語由来の語に付けられる。但し、同じ語にこれらの異なる接頭辞が付けられ、意味的な差異が生じている場合もある。例えば、“immoral” と “unmoral” では、前者が “The opposite of moral; not moral.” (*OED*<sup>2</sup> s.v. “immoral,” 初例: 1660) というように「不道德な; 不品行な、ふしだらな」の意味であるのに対し、後者は “non-moral” (*OED*<sup>2</sup> s.v. “unmoral,” 初例: 1841) と同意語で、単に「道徳観念のない、道徳と無関係な」という意味である。<sup>8)</sup>

また、日本語にも借用されている抽象名詞 “unbalance” は「不均衡、不釣り合い」という意を表すが (*OED*<sup>2</sup> s.v. “unbalance,” 初例: 1887), “imbalance” の方は同じ「不均衡」な状態でも、*OED*<sup>2</sup> に “Orig. a technical term in Ophthalmology but now used generally in many subjects and contexts.” (s.v. “imbalance,” 初例: 1898) と記されているように、元来は医学的な専門用語であった。意味の一般化 (generalization) のプロセスを経て、より広く使用されるようになった例である。

既述の通り、概して *un-* は造語力の高い接頭辞ではあるが、意味的な差異のない形のみの違いに目を向けると、*un-*, *in-* のどちらの接頭辞を用いるかについては、時代毎に移り変わる。<sup>9)</sup> 実際、Richardson の活躍した時代には、現代英語 (Present-Day English: 以下 PE) とは異なる傾向が見られる。その典型的な例として “grateful” という語を挙げると、PE では否定の接頭辞は “ungrateful” であるが、当時は “ingrateful” と競合していた (この語は PE では廃語である)。

他にも AllRich に現れるこの種の語の頻度を一部比較してみると、次ページの表の通りである。<sup>10)</sup> それぞれ *OED*<sup>2</sup> の初例の年号と共に挙げておくが、PE で優勢の方には網掛けで表示する。尚、参考までに、*OED*<sup>2</sup> をコーパスとして調べた頻度と、1億語から成る現代イギリス英語のコーパスである British National Corpus (以下 BNC) の頻度を併記しておく。<sup>11)</sup>

[表 1 A] の “inaply” と “impoliteness” については、*OED*<sup>2</sup> の初例から判断すると、それぞれ 19 世紀前半 (a1834) と 18 世紀後半 (a1773) で、Richardson の時代 (生没年 1689-1761) に使用されていなかった可能性が高いが、それ以外の語についても、Richardson

[表 1 A]

<i>in-/il-/im-/ir-</i>	初例	AllRich	OED	BNC
inaptly	a1834	0	21	3
incontrollable	1599	0	12	0
informal	1603Sh	0	289	2374
†ingrateful	1547-64	46	15	0
†ingrately	1543-4	5	5	0
illogical	1588	0	49	222
immovable	c1374	0	151	87
impolite	1612	1	36	55
impoliteness	a1773	0	4	2
impolitely	1608	0	5	0
†irreturnable	1563	0	2	0
intractable	1545	0	95	216

は殆ど PE とは異なる *un-* 接頭辞の方を好む傾向にあることが窺える ([表 1 B] 参照)。とりわけ、BNC での頻度が傑出している “informal” については、Richardson の作品では一度も現れない（代わりに、“unformal” が一度ではあるが使用されている）。また、PE で頻用される “impolite” が Richardson では 1 例しかないのに対し、“unpolite” の方の頻度は 26 回で際立っている。

ちなみに、18 世紀には、PE で優勢の “imperfect,” “impossible” という語にも *un-* 形の “unperfect,” “unpossible” がある。例えば、Oliver Goldsmith の喜劇 *She Stoops to Conquer* (1773) では、召使の Diggory の台詞に “unpossible” という語が出てくるが、OED<sup>2</sup> の用例にもなっている (*s.v.* “unpossible,” 初例: 1362)。

(2) DIGGORY: By the laws, your worship, that's perfectly unpossible. (Act II, Scene i, p. 126)

しかしながら、Diggory の主人 Mr. Hardcastle の台詞の中では、以下の様に “impossible” である。

(3) HARDCASTLE: If we should find him so—  
But that's impossible. (Act III, Scene i, p. 160)

他にも、Hardcastle と同じ身分の Marlow や Miss Neville においても “impossible” となっていることから、この “unpossible” が当時の下層階級を示す一種の社会的指標 (social marker) になっている可能性が高いと言える。

Richardson の作品においても、“impossible” の

[表 1 B]

<i>un-</i>	初例	AllRich	OED	BNC
unaptly	1548	1	25	0
uncontrollable	1577	19	92	213
unformal	c1449	1	5	0
ungrateful	1553	133	123	138
ungratefully	1581	6	23	7
unlogical	a1661	1	6	0
unmovable	c1375	1	7	2
unpolite	1646	26	15	0
unpoliteness	1702	4	9	0
†unpolitely	1589	1	1	0
unreturnable	1513	6	5	0
untractable	1538	2	26	0

頻度が 19 であるのに対し、“unpossible” の方は皆無である。“perfect” とその派生語の頻度も、“imperfect” が 19、“imperfectly” が 6、“imperfection” が 45 であるのに対し、それぞれに対応する *un-* 派生形の場合は皆無である。

OED<sup>2</sup> に “Very common c1400–1660” と解説されているように、この “unpossible” は、中英語末期から初期近代英語 (Early Modern English: 以下 EModE) の時代には多用されており、*im-*、*un-* 二者の選択に社会階級差はないと考えられる。Shakespeare を資料にこれらの語を考察した Takumi & Yonenaga (1995: 77) にも、社会的要因としての位置付けには触れられていない。OED<sup>2</sup> には上記の解説に続き、“Now only *dial.*” が加えられているが、18 世紀は、この語の標準が *un-* から *im-* へと移行され、PE と同じ形に向かっている過程が辿れる。

## 2. *un-* 派生語のリスト

それでは次に、先の 1. 2 で吟味した AllRich における *un-* 派生語を、類別してアルファベット順に表示する。約 223 万語ある AllRich の中で否定の *un-* の添加した語は約 560 種類で、総計が 4900 程度あるが、その内訳をそれぞれの表の Total の欄に記入しておく。前セクションの表と同様、各語には OED<sup>2</sup> の初例を併記するが、Richardson の作品が OED<sup>2</sup> の用例となっているものはボールド体で示す。そのうち初例となっている語には #、唯一例には ##、初例に先んじて用いられている語には @ のマークを付しておく。また、OED<sup>2</sup> に記載のない語については、網掛け表示をする。<sup>12)</sup>

## 2.1 形容詞・副詞

[表2]

<i>Un</i> -Words	初例	頻度	<i>Un</i> -Words	初例	頻度	<i>Un</i> -Words	初例	頻度
unable	c1380	123	<b>ungrateful</b>	1553	133	untenable	1647	1
unacceptable	1483	7	<b>unguilty</b>	c893	3	untender	1605Sh	1
<b>unaccountable</b>	1643	32	unhandsome	1530	1	unthankful	c1400	2
unallowable	1560	1	unhappy	a1300	833	untimely	1535	9
unalterable	1611	6	unhealthy	1611	2	untoward	1526	4
unamiable	c1480	1	<b>unhurtful</b>	1549	2	untowardly	1483	1
unanswerable	1611	10	unintelligible	1616	1	untractable	1538	2
<b>unapprehensive</b>	1624	10	unjust	1382	49	untrue	c1040	3
unapproachable	1581	1	unjustifiable	1641	4	untumultuous	1741	1
unattainable	1662	2	unkind	c1250	43	unuseful	1598	7
unavailable	1549	1	unlawful	a1300	13	unusual	1582	15
unavoidable	1577	16	unlike	c1200	18	<b>unvirtuous</b>	1432	3
unblameable	1531	7	<b>unlogical</b>	a1661	1	unwarrantable	1612	1
<b>unbrotherly</b>	1586	10	unlovely	1377	1	unwary	1579	1
<b>unbusy</b>	1644	1	unlucky	1530	5	unwelcome	c1325	14
<b>uncautious</b>	a1711	1	unmanageable	1632	8	unwilful	1398	2
uncensorious	1598	3	unmanly	c1475	32	unwise	c825	3
unceremonious	a1300	28	unmannerly	1388	1	unwomanly	1529	8
uncertain	1753	4	<b>unmatronlike##</b>	1748	1	<b>unworthy</b> <sup>13)</sup>	a1240	239
<b>uncharacteristic</b>	1456	10	unmerciful	1481	2	unaccountably	1679	8
uncharitable	1382	1	unmindful	1382	3	unalterably	1643	5
unchaste	c1449	3	unmovable	1382	1	unaptly	1548	1
uncheerful	1555	3	unnatural	a1425	58	unavoidably	1608	6
unchristian	1553	11	unnecessary	1548	32	unawares	1535	16
uncivil	a900	1	<b>unobjectible##</b>	1748	6	unceremoniously@	1755	4
unclean	1592Sh	4	unobservant	1611	1	<b>uncharacteristically#</b>	1753	1
uncomfortable	1548	53	unostentatious	1747	1	uncharitably	c1386	1
uncommon	1691	1	unpardonable	1525	17	<b>uncheerfully</b>	a1628	1
uncommunicative	1691	1	<b>unpersuadable</b>	a1586	2	uncivily	1577	1
<b>uncompanionable#</b>	1748	2	<b>unpermanent</b>	1630	2	uncommonly	1747	7
unconditional	1598	10	<b>unpersuadable</b>	a1586	8	unduly	1399	2
unconquerable	1570	3	<b>unpersuasive#</b>	1748	2	undutifully	1583	2
unconscionable	1712	3	<b>unpitiable</b>	1646	1	uneasily	c1290	4
unconscious	c897	2	unpleasant	1538	2	unequally	1548	4
uncouth	1382	2	<b>unpolite</b>	1646	26	<b>unexceptionably</b>	1662	9
<b>uncontrollable</b>	1577	19	unpopular	1647	1	unfairly	1713	1
† <b>unculpable</b>	c897	1	<b>unprecedentedly##</b>	1748	1	ungenerously	1722	14
<b>undaughterly#</b>	1500	1	<b>unprincely</b>	1536	3	ungovernably	1682	1
<b>undear#</b>	1585	3	unprofitable	a1325	2	ungracefully	1661	3
<b>undeliberate</b>	1667	3	unpropitious	1699	4	ungraciously	c1330	5
<b>undelightful</b>	1754	1	<b>unpunctilious##</b>	1753	1	ungratefully	1581	6
undesirable	1387	24	unpunctual	1740	1	unhandsomely	1545	5
<b>undomestic#</b>	1582	38	unquenchable	1382	1	unhappily	c1374	53
undue	c1290	244	unquestionable	1603	23	unjustly	1382	9
<b>undutiful</b>	1565	44	unquiet	1551	1	unkindly	a1225	19
uneasy	1664	45	unreasonable	c1340	50	<b>unkindredly##</b>	1748	1
unequal	c888	2	<b>unreturnable#</b>	1513	6	unlawfully	a1310	2
unexceptionable	1563	3	unripe	c1000	1	unlikely	1375	17
unfair	1617	1	unruly	1400	8	unluckily	1530	5
unfashionable	1548	3	unsafe	1597	1	unmercifully	1548	5

unfathomable	1548	9
<b>unfaulty</b>	1548	37
unfavourable	c1449	1
unfit	1530	13
unformal	1425	9
unfortunate	1641	104
unfriendly	1633	1
ungenerous	c1374	2
ungenteel	1592	1
ungentle	1562	5
ungentlemanlike	1673	18
<b>ungentlemanly</b>	1667	7
ungovernable	a1225	12
ungraceful	1553	133
ungracious	c893	3

unsatisfactory	1637-50	2
unsearchable	1382	2
unseasonable	c1448	25
unseemly	a1310	1
<b>unshy#</b>	1748	1
<b>unsisterly#</b>	1747	9
unsociable	1600	1
unsocial	1731	1
unsound	c1320	1
unspeakable	a1400	6
unsteady	1598	6
unsuccessful	1617	7
unsuitable	1597	11
<b>unsuspectable</b>	1660	1
unsuspicious	1595	2

unnaturally	c1485	3
unnecessarily	1594	4
† <b>unpolitically</b>	1589	1
unquestionably	1644	6
unreasonably	c1380	5
unseasonably	1588	7
unskilfully	1338	2
unsoldierly	1598	1
unsuccessfully	1649	2
unsuitably	1624	1
<b>unsuspectably##</b>	1748	1
unthankfully	a1470	2
unusually	1615	5
unwelcomely	1642	2
unworthily	c1290	19
<b>TOTAL</b>		3252

## 2.2 分詞形容詞 (-ed形) とその副詞

[表3]

Un-Words	初例	頻度
unabated	?a1611	6
unaccompanied	1545	4
unaccounted	1587	2
unaccustomed	1526	1
unacknowledged	1583	1
unacquainted	1529	9
unadjusted@	1775	1
unadorned	1634	1
unadvised	a13..	2
unaffected	1592	35
unaffrighted	1586	1
<b>unaffronted#</b>	1753	1
unaided	1667	1
unalloyed	a1672	1
unamended	1382	1
unanimated	1697	3
unanswered	1390	5
unappalled	1578	1
unapproved	1421	1
unasked	a1255	8
unassured	c1430	1
<b>unatoned#</b>	1727	2
unattempted	a1548	3
unattended	1603	6
<b>unaudienced##</b>	1748	1
<b>unaverted#</b>	1753	1
<b>unbenefited</b>	1735	2
<b>unbiassed</b>	1607	4
unbidden	c1010	6
unblemished	13..	5
unbolted	c1580	5
unborn	c897	4
<b>unborrowed</b>	1638	2

Un-Words	初例	頻度
unequaled	1622	6
unessayed	1642	2
<b>unexamined</b>	1495	1
unexampld	1610	12
unexecuted	1585	1
unexhausted	1648	1
unexpected	a1586	52
unexperienced	1569	10
unfatigued	1705	1
unfeigned	c1374	12
unfelt	a1586	1
unfettered	1601	1
unfinished	1553	5
unfixed	1598	1
unfledged	1611Sh	1
<b>unfleshed</b>	1542	1
unfolded	1589	3
<b>unforced</b>	1598	1
unforeseen	1651	7
unformed	a1340	2
unfrequented	1588Sh	2
unfriended	1513	1
unfurnished	1549	1
ungoverned	1591Sh	6
ungrounded	c1380	1
unguarded	a1593	16
unhallowed	c1000	1
<b>unhardened</b>	1590Sh	2
unhealed	a1225	1
unheard	a1300	1
unheard-of	1592	4
unheeded	1611	5
unhidden	1599Sh	1

Un-Words	初例	頻度
unproved	c1440	2
unprovided	1523	8
unprovoked	1585	1
unpunished	a1340	3
unqualified	1556	2
<b>unquestioned</b>	1601Sh	4
unread	1456	1
<b>unreceived</b>	1540	4
unreconciled	c1450	1
unreformed	1528	1
unreined	1609	1
unrelieved	1533	1
unrequited	a1542	2
<b>unresented</b>	1705	1
unreserved	1539	30
unresisted	1526	1
unrevealed	1529	1
unrewarded	c1412	4
unrivalled	1591Sh	2
unsaddened@	?c1840	1
unsaid	c1000	1
unsatisfied	c1430	3
unsealed	1377	8
unseared	1599	1
unseen	a1225	17
<b>unsent</b>	1501	4
unsettled	1591	5
unshaken	c1460	3
unsheathed	c1430	1
unshocked	1712	1
unsigned	1598	3
unskilled	1581	1
unsold	1362	1

unbounded	1598	11	unhurt	a1225	7	unsolemnized	1603	1
unbred	c1600	3	unimpaired	1583	1	unsought	a1225	3
unbridled	c1374	4	unimpeached	c1430	1	unspotted	1382	3
unbroken	a1300	11	unemployed	1667	1	<b>unstrained##</b>	13・	1
unburied	a900	2	uninclined	1729	1	unsubdued	1590	2
unburnt	c1290	1	unenclosed	1676	1	<b>unsubscribed</b>	1571	1
unbuttoned	1583	1	<b>unincumbered</b>	記載なし	2	unsuited	1599	1
uncalled	a1400-50	1	<b>unincumbred<sup>14)</sup></b>	記載なし	1	unsullied	1588Sh	8
uncalled-for	1635-56	1	<b>unincurred</b>	記載なし	1	<b>unsubscribed</b>	a1711	1
uncensured	1574	1	uninspired	1690	1	unsupplied	1599	1
unchained	1660	4	unintended	1649	2	unsupported	1420-2	4
unchanged	1387	1	uninterrupted	1602	9	unsuspected	c1530	3
unchecked	1469	3	<b>uninvaded</b>	1571-2	3	unswaddled	v. 1580	1
unchequered@	1796	1	uninvited	1631	4	unswathed	v. a1400	1
<b>unlogged</b>	1563	1	unknown	13・	93	untainted	1594Sh	18
unclosed	c1400	1	unlaboured	c1450	1	<b>untalented#</b>	1753	1
unclouded	1595	3	unlamented	1595	1	untaught	c1340	3
uncommunicated	1597	1	unlearned	c1400	2	<b>untenanted</b>	1673	1
uncompelled	1470-1	1	unlettered	c1340	1	unthought	1538	2
<b>unconcerned</b>	? c1635	11	unlicked	1593	1	untied	c1374	2
unconditioned	a1631	1	unlocked	1603	3	untired	1594Sh	1
unconnected	1736	2	unlooked	a1300	1	untold	c1000	1
uncontaminated	1611	2	unmanned	1544	1	<b>untouched</b>	c1380	4
uncontradicted	1606	1	unmarried	1297	33	untranslated	1530	1
uncontroled	1513	3	unmasked	1590	1	untried	1526	3
unconverted	1648	2	unmentioned	1545	1	untwisted	1575	2
unconvinced	1643-5	1	<b>unmerited</b>	1648	17	unused	1297	10
uncorrected	1387	1	unmingled	1548	3	unviolated	1555	7
uncorrupted	c1400	3	unmixed	1526	4	unwarned	c1000	1
uncoupled	1377	1	unmolested	1531	6	unwearied	a1240	2
uncovered	c1400	1	<b>unmortified</b>	c1450	3	unwieldy	c1386	1
uncultivated	1646	2	<b>unmortised<sup>15)</sup></b>	1748	1	unwished	1583	2
<b>uncurtailed#</b>	1741	1	unmoved	c1375	5	unwonted	1553	1
undaunted	1422	2	<b>unmuffled<sup>16)</sup></b>	v. 1611	1	unworn	a1586	1
undecayed	1513	1	unnamed	1509	1	unwritten	1362	2
undecided	c1400	4	unnoted	1563	1	unaffectedly	1677	8
undefended	1399	3	unnoticed	1720	2	unbarred	a1550	1
undeserved	c1374	24	unnumbered	c1375	1	unbeaten	a1275	2
undesigned	1654	5	unobserved	1612	13	unconcernedly	1636	1
undesired	1470-1	6	unopened	1600	10	undeservedly	1549	12
undetected	a1593	1	unopposed	1659	1	undesignedly	1687	4
undetermined	1442	7	<b>unowned</b>	1611	2	undisguisedly	1611	2
undischarged	1585	1	unpacked	1495	1	undisturbedly	1647	1
undiscovered	1542	2	unpadded@	1923	1	<b>undivestedly##</b>	1748	1
undisguised	a1500	3	unpaid	1375	1	undoubtedly	? a1500	38
undisposed	c1380	2	<b>unpaired</b>	1648	2	unexpectedly	1605	19
undissembled	1651	1	unparalleled	1594	1	unfeignedly	1526	1
undistorted	1647	1	unperceived	c1350	6	unguardedly	1713	1
undisturbed	a1610	2	unpinioned	1622	1	uninterruptedly	1665	2
<b>undivested#</b>	1753	1	unpitied	a1586	1	<b>unmixedly</b>	1642	1
undivided	c1412	2	unpractised	1551	4	<b>unpacifiedly##</b>	1748	1
undoubted	c1460	17	unprecedented	1623	9	<b>unprepossessedly##</b>	1748	1
undrawn	1527	4	unprejudiced	1613	7	<b>unreservedly</b>	1651	5

<b>undressed</b>	1445	5
<b>undriven</b>	1615	1
<b>unenvied</b>	1390	1

<b>unprepared</b>	1549	13
<b>unprincipled</b>	1634	2
<b>unprotected</b>	a1593	8

<b>unsuspectedly##</b>	1645	3
<b>TOTAL</b>		1092

## 2.3 分詞形容詞 (-ing 形) とその副詞

[表 4]

<i>Un-Word</i>	初例	頻度
<b>unadoring#</b>	1748	1
<b>unassuming</b>	1726	1
<b>unavailing</b>	1670	7
<b>unbecoming</b>	1598	10
<b>unbelieving</b>	a1400	2
<b>unbeseeming</b>	1583	1
<b>unblushing</b>	1595	5
(* <b>unblushingly#</b> )	1752	1
<b>unconceding</b>	記載なし	1
<b>uncontending#</b>	1748	2
<b>undecaying</b>	1599	1
<b>undeserving</b>	1549	7
<b>undesigning</b>	1673	11
<b>undiscerning</b>	1589	1
<b>undissembling</b>	1613	1
<b>undistinguishing</b>	1599	7
<b>undoubting</b>	c1400	3
<b>unedifying</b>	1641	2

<i>Un-Word</i>	初例	頻度
<b>unenvying#</b>	1741	1
<b>unerring</b>	c1660	7
<b>unfeeling</b>	c1000	6
<b>unforgiving</b>	1713	11
<b>unhesitating@</b>	1753	1
<b>unhoping##</b>	a1628	2
<b>unimitating##</b>	1748	1
<b>unmeaning</b>	1704	5
<b>unpenetrating##</b>	1748	2
<b>unpitying</b>	1605	1
<b>unpleasing</b>	c1480	3
<b>unpresuming@</b>	1770	1
<b>unprofessing##</b>	1748	1
<b>unpromising</b>	1663	2
<b>unreflecting##</b>	1665	4
<b>unrelenting</b>	1588Sh	4
<b>unreproaching#</b>	1742	2
<b>unrepulsing##</b>	1748	1

<i>Un-Word</i>	初例	頻度
<b>unresisting</b>	1625	1
<b>unrestrained</b>	a1600	5
<b>unsparing</b>	a1586	1
<b>unstarting##</b>	1748	1
<b>unsuspecting</b>	1595	1
<b>unthinking</b>	1676	6
<b>unwilling</b>	c897	41
<b>unyielding</b>	1592Sh	3
<b>unavailingly#</b>	1748	2
<b>unbecomingly</b>	1653	4
<b>undoubtedly</b>	c1400	2
<b>unpityingly#</b>	1741	1
<b>unrepiningly</b>	1626	1
<b>unreproachingly##</b>	1753	1
<b>unsparingly</b>	a1500	1
<b>unwillingly</b>	a1533	5
<b>unwittingly</b>	1375	1
<b>TOTAL</b>		196

<※: *Let.* で初例>

## 2.4 名詞

[表 5]

<i>Un-Word</i>	初例	頻度
<b>unaccountableness</b>	1676	1
<b>unacquaintedness</b>	1617	3
<b>unapprehensiveness</b>	1661	1
<b>unbeliever</b>	1526	1
<b>uncertainty</b>	1382	53
<b>uncharitableness</b>	1548-9	4
<b>uncommunicativeness#</b>	1748	1
<b>unconcern</b>	1711	7
<b>unconcernedness</b>	1647	3
<b>uncontrollableness</b>	1634	3
<b>uncourtliness</b>	1668	1
<b>undutifulness</b>	1549	4
<b>uneasiness</b>	1387	116
<b>unevenness</b>	1398	1
<b>unexceptionableness</b>	1669	1
<b>unfitness</b>	a1586	2

<i>Un-Word</i>	初例	頻度
<b>unfixedness</b>	1598	2
<b>unforgiveness</b>	1611	2
<b>unforgivers##</b>	1748	1
<b>unforgivingness#</b>	1748	6
<b>ungracefulness</b>	1658	1
† <b>ungraciousness</b>	1509	2
<b>unhappiness</b>	1470-85	37
<b>unkindness</b>	a1300	21
<b>unlikelihood</b>	1483	1
<b>unmanageableness</b>	1664	1
<b>unnecessary</b>	1559	1
<b>unpermanency@</b>	1864	1
<b>unpersuadableness</b>	1615	2
<b>unpoliteness</b>	1702	4
<b>unpreparedness</b>	1627	1
<b>unprettiness</b>	1675	1

<i>Un-Word</i>	初例	頻度
<b>unprosperousness</b>	a1660	1
<b>unreasonableness</b>	1532	1
<b>unreserve#<sup>17)</sup></b>	1751	2
<b>unreservedness</b>	1648	5
<b>unsatisfiedness</b>	1646	1
<b>unseasonableness</b>	1523	2
<b>unsightliness</b>	1611	1
<b>unsisterliness#</b>	1748	1
<b>unskilfulness</b>	c1410	1
<b>unsoundness</b>	1586	1
<b>unsteadiness</b>	1611	2
<b>unthankfulness</b>	c1500	1
<b>untruth</b>	c893	12
<b>unusualness</b>	1579	2
<b>unwillingness</b>	1593Sh	3
<b>unworthiness</b>	a1340	35
<b>TOTAL</b>		357

## 3. 分析と考察

3.1 Richardson に特徴的な *un-* 派生語

[表 2] ~ [表 5] でリストアップした *un-* 派生語を分析すると、以下の 3 点を指摘することができる。

- ① *-ed* 形の形容詞の種類がかなり豊富である。
- ② *-ing* 形の形容詞には、*OED*<sup>2</sup> の初例や唯一例、あるいは初例以前に使用されている語など、独自性が窺える語が目立つ。
- ③ *OED*<sup>2</sup> の用例になっている語、特に初例や唯一

例の語の多くが多音節である。

### 3.2 Richardsonの造語法

まず、*OED*<sup>2</sup>の初例や唯一例になっているような特徴的な語の傾向を分析すると、“unshy”のように、自由形態素の形容詞に **negative prefix** が添加した例もあるが、大半は、語基 (base) に複数の接辞を付け加えることで構成されている。また、Richardsonの開拓した語には同系列のものが多し。例えば、“domestic” (初例:1521) という形容詞を例にとると、この語の複合名詞である “domestic service” は1741年の *Pam* からが初例で、*un-* を付けた “undomestic” では1754年の *SirCG* から、さらには *-ing* 形の形容詞である “undomesticating” においても1754年の *SirCG* からが初例である。

他にも、以下の様な例が見られる。

- A. **base: (n.) character** (初例: c1315)  
 + *-ic*: (a.) characteristic (初例: 1665)  
 + neg. prefix:  
 → (a.) **uncharacteristic**# (初例: 1753 *SirCG*)  
 + *-ly*:  
 → (adv.) **uncharacteristically**#  
 (初例: 1753 *SirCG*)

- B1. **base (v.): suspect** (初例: 1483-4)  
 + *-able*:  
 → (a.) **suspectable**# (初例: 1748 *Cl*)  
 + neg. prefix:  
 → (a.) **unsuspectable** (初例: 1660)  
 [2例中 *Cl* が第2例]  
 + *-ly*:  
 → (adv.) **unsuspectably**## (唯一例: 1748 *Cl*)

- B2.  
 + *-ed*: (*ppl. a.*) suspected (初例: 1559)  
 + neg. prefix: (*ppl. a.*) unsuspected (初例: c1530)  
 + *-ly*:  
 → (ad.) **unsuspectedly**## (1b. 唯一例: 1748 *Cl*)

- C. **base (v.): reproach** (初例: c1489)  
 + *-ing*:  
 → (*ppl. a.*) **reproaching**# (初例: 1742 *Pam*)  
 + neg. prefix:  
 → (*ppl. a.*) **unreproaching**# (初例: 1742 *Pam*)  
 + *-ly*:  
 → (adv.) **unreproachingly**##  
 (唯一例: 1753 *SirCG*)

### 3.3 多音節の語

接辞を加えることで、語彙構造が複雑になるということは、多音節になることを意味する。Richardsonに使用されている *un-* 派生語のうち、*OED*<sup>2</sup> の用例になっている語、特に初例や唯一例の語の音節数を調べてみると、多くが4~6音節であることが分かる。中には7音節や8音節のような極めて稀な多音節語まで使用されていることもある。以下には、代表的な例をいくつか挙げておく。

- 6音節 **un · cer · e · mo · ni · ous**  
 6音節 **un · char · ac · ter · is · tic**  
 6音節 **un · ap · pre · hen · sive · ness**  
 7音節 **un · com · mu · ni · ca · tive · ness**  
 8音節 **un · char · ac · ter · is · ti · cal · ly**

Chaucerの時代には、“unlust,” “untime,” “untruth,” “unwit” など名詞に直接 **negative prefix** の *un-* が付くことがあったが、下笠 (1976: 59) によると、このタイプの語は「廃語になっていく傾向をもつ」とのことである。確かに、[表5]に例示した名詞を見ても、PEにまで残る“untruth”を除くと、全て他の品詞から派生した語である。

しかも、以下の(4a)の様に多音節の語が併置されていたり、(4b)の様に複数形になって語構造がさらに複雑化している例もある。この点については、脇本 (2008b) の論考においても、[表5]のリストに挙げた“unaccountableness”の複数形“unaccountablenesses”という7音節の語の例で説明している。

- (4) a. As to my charge upon him of unpoliteness and uncontrollableness — (*Cl* II. 189)

- b. ‘My Beloved’s jealousy [and jealousy of itself, to female minds, accounts for a thousand unaccountablenesses]... (*Cl* V. 104)

(4a)の“uncontrollableness”は、語基である“control”という動詞から派生しているが、その派生のプロセスを、それぞれ*OED*<sup>2</sup>の初例を併記することで示す。また、Quirkの表記を参考に、語構造を分析しておく。<sup>18)</sup>

- base: (v.) control (初例: c1310)  
 > (a.) controllable (初例: 1576)  
 > (a.) **uncontrollable**  
 (初例: 1593 [3. *Cl* が第3例])



> (n.) **uncontrollableness**  
 ↓ (初例: 1634 [Clが第3例])  
 {un [(control)-able]}-ness

base: (v.) **account** (初例: 1393)  
 > (a.) **accountable** (初例: 1583)  
 > (a.) **unaccountable**  
 (初例: 1643 [1b, Clが第2例])  
 > (n.) **unaccountableness**  
 ↓ (初例: 1676 [Clが第4例])  
 {[un [(account)-able]}-ness]-es

このような派生のプロセスは、特に名詞が多音節になる所以ではあるが、この点を差し引いたとしても、Richardson の作品には多音節の語が際立つ。例えば、“ungrateful”という形容詞を取り上げてみる。3音節以上の語を比較級・最上級にする場合、PEでは通常“more ungrateful,” “most ungrateful”のように迂言比較 (periphrastic comparison) を使用する。他方、Richardson の作品では、屈折による最上級も使用されており、“periphrastic vs. inflectional”の割合が7対4である。それぞれ一例ずつ以下に挙げておく。

(5) a. So they are to lose a Son, or to conquer a Daughter — the perversesest and most ungrateful that ever Parents had! (Cl I. 350)

b. To be sure, Sir, said I, if it was, I must be the ungratefulest Person in the World, because I am the most obliged Person in it. (Pam II. 327)

一時代前の EModE 期には、多音節語においても屈折比較を用いるのは特段珍しいことではなかったが、Richardson の時代には、一部の例外を除き、概して減少の一途を辿っている。OED<sup>2</sup> をコーパスとして調査しても、上掲の (5b) が “ungrateful” の 1. の第 5 例に使用されている以外には見あたらない。PE の場合も、BNC によると、“most ungrateful” の方は 4 例あるのに対し、“ungratefulest” は皆無である。

さて、前述の脇本 (2008b) では抽象名詞の複数性を考察した際、「-ness を複数にすると音声的にも読みにくく (Cl に見られる ‘unaccountablenesses’ のような多音節語においてはなおさらである)」という指摘をしている。それでは、Richardson は、何故このような読みにくい多音節の語を好んで用い

たのであろうか。

語形成 (word formation) の観点から考えると、新語を造るのは、接辞を添加する「派生」(derivation) の他にも、語基の形を変えることなく他の品詞にする「転換」(conversion) や複数の語から成る「複合」(compounding) などが挙げられるが、Richardson は作品の中で、それぞれ積極的に試みている。臨時語や初期の Shakespeare の作品に見られるような言葉遊びも導入している。このことから、Richardson は言葉への意識がかなり高かったものと判断できるが、多音節の語については実際の話しことばの中では使用しにくいいため、実用という点からは考えにくい。近代英語期にはラテン語系など外来語が多用されており、その流行の一環とも言えるが、考えられる別の推測としては、印刷業を生業としていた Richardson にとって、小説はあくまで書物という「目で楽しむ作品」というものであり、視覚に訴えることに着目したのではないかということである。多音節の語を発音しなくとも、視覚に映る目新しさで読者の印象に残るようにしたのではないであろうか。

おわりに

Richardson の作品には様々な形態の否定表現が頻用されているが、その代表的な一つが接辞によるものである。本稿では un- 派生語に焦点を絞り調査したが、その結果、OED<sup>2</sup> の初例や唯一例の大半に共通する特徴は、複数の接辞添加により構成される多音節語であることが明らかになった。Richardson の全作品は 220 万語以上にのぼり、ここから割り出される膨大なデータの分析を一つの論考にまとめることは、スペースその他の関係で無理がある。よって、今回の調査では、総じて un- 派生語における形の上での分析に留まり、意味的な吟味はしていない。今後は、コンテキストを考慮した分析を課題とすると共に、OED<sup>2</sup> の初出年以前に用いられている語や OED<sup>2</sup> に記載のない語についての考察も併せて行っていきたい。

注:

- 1) 主人公 Pamela が女中の境遇から結婚に至るまでのストーリーと、結婚後の (Pam の続編的な) ストーリーの二部構成であるが、Chadwyck-Healey ではそれらを一つのコーパスにしているので、ここでもこれらをまとめて Pam と表記する。
- 2) 2009年9月の時点での情報。
- 3) 作品を初版に統一しなかったのは、初版には、“unnatural” が “unhatural,” “unnecessary” が

- “unnecessary,” “un-shy” が “un-thy” のようなミス・スペリングが散見されるなどの理由による。
- 4) 本文に直接示している以外の略語については、以下の通りである。  
*a.:* adjective / *a:* (in dates) *ante* / *adv.:* adverb / *c.:* century / *c:* (in dates) *circa* / *Corr.:* Correspondence / *dial.:* dialect / *Let.:* Letter / *n.:* noun / *neg.:* negative / *Org.:* Origin(al)(ly) / *ppl. a.:* participial adjective / *Sh:* Shakespeare (初例が Shakespeare の作品) / *s.v.:* *sub voce*, ‘under the word’ / *v.:* verb // †: obsolete
- 5) Quirk, *et al.* (1972: 982-83), 研究社『新英語学辞典』(1982: 936), Nevalainen (1999: 382-83)などを参照。
- 6) 以降、下線部、網掛け、ボールド体などの表示は、全て筆者による強調。
- 7) 語用論的に言うならば、厳密には *un-* 派生語が “not ~” と必ずしも完全にイコールになるというわけではないが、ここでは「否定」の概念を含むということに主眼を置く。
- 8) 研究社『新英語学辞典』(1982: 936)を参照。
- 9) 作品の形式によっても変わる可能性があり、韻文においては、韻律や語調も関係することが考えられる。その点については、例えば、Shakespeare では、Takumi & Yonenaga (1995) の論考を参照されたい。
- 10) コンコーダンスのソフトから割り出した頻度には若干の誤差があるかもしれないが、分析に支障をきたすほどの問題はないと考える。
- 11) 以降、頻度を調査する際、辞書の見出し語のみならず、その語の異形 (variant form) についても併せて調査する。例えば、*OED*<sup>2</sup> における “uncontrollable” という見出し語の頻度においては、“uncontrollable” が73, “uncontrollable” が16, “uncontrollable” 3で、計92である。AllRich や BNC における頻度を調査する場合も同様とする。[表1 A] [表1 B] には直接関係ないが、他にも、Richardson では “uncontrollableness” は、“uncontrollableness” のスペリングで表記されているなど、PE とは異なる形がいくつかの語に見かけられる。これらについては、時代的背景を考慮して柔軟に対応していく。
- 12) 表中の「初例」とは、*OED*<sup>2</sup> の全用例の初出の年号のことを指す。他方、意味・用法の新しいものとして Richardson が初例となっている場合にも#のマークを付けている。例えば、“unreturnable” の *OED*<sup>2</sup> の1. の “†1. Admitting of no return.” の意味の初例は1513年であるが、

2. の “Incapable of being returned.” の意味では Richardson の Pam が初例であるので、#のマークを付けている。
- 13) AllRich に現れる “unworthy” には形容詞と副詞の用法があるが、表の中では、便宜上両者を合計した頻度になっている。尚、Pam からの引用が *OED*<sup>2</sup> の副詞の方の第3例となっている。
- 14) 上段の “unencumbered” の異形の可能性が高いが、*OED*<sup>2</sup> に記載がないため、便宜上、別々に載せておく。
- 15) *Cl* の第3版では “unmortified” となっていたが、*OED*<sup>2</sup> の初例に “unmortised” と出ており、意味的にも “unmortified” ではなく “unmortised” であるため、この形で載せている。
- 16) “unmuffled” という分詞形容詞では *OED*<sup>2</sup> の見出し語句にないため、ここでは “unmuffle” という動詞の初例の年号を載せている。以下、初例の前に *v.* の略号があるものも同様である。
- 17) *OED*<sup>2</sup> の初例は “Duncombe in Richardson’s *Corr.*” からの引用だが、この中で使用されているのは、Richardson の用いた言葉であるので、初例と同じ扱いとしている。
- 18) 大修館『語彙論』(1975: 374) 参照。

#### テキスト

- Goldsmith, Oliver (1773) *She Stoops to Conquer in Collected Works of Oliver Goldsmith Vol. V.*, ed. Arthur Friedman. Clarendon Press, Oxford, 1966.
- Richardson, Samuel (1740-41) *Pamela; or, Virtue Rewarded*, in 4 Vols., The Shakespeare Head Edition of the Novels of Samuel Richardson, Basil Blackwell, Oxford, 1929.
- . (1747-48) *Clarissa or, the History of a Young Lady*, in 8 Vols.
- . (1753-54) *The History of Sir Charles Grandison*, in 6 Vols.

#### 参考文献

- 荒木 一雄, 他編 (1982) 『新英語学辞典』, 研究社, 東京.
- Ball, Donald L. (1976) “Richardson’s Resourceful Wordmaking,” *South Atlantic Bulletin* 41, 56-65.
- Ito, Hiroyuki (1993) *Some Aspects of Eighteenth-Century English*, Eichosha, Tokyo.
- Marchand, Hans (1969) *The Categories and Types of Present-Day English Word-Formation: A Synchronic-Diachronic Approach*, C. H.

- Beck'sche Verlagsbuchhandlung, München.
- Nevalainen, Terttu (1999) "Early Modern English Lexis and Semantics," in Roger Lass, ed., *The Cambridge History of the English Language*, Vol. III, 1476-1776, Cambridge University Press, Cambridge, 332-458.
- Quirk, et al. (1972) *A Grammar of Contemporary English*, Longman, London.
- 柴田 省三 (1975) 『語彙論』(英語学大系 7), 大修館, 東京.
- 下笠 徳次 (1976) 「Chaucer の作品に現れる 'UN'-words の研究」, 『山口女子大学研究報告』, 第1巻, 山口女子大学, 59-71.
- Simpson, J. A. & E. S. C. Weiner, eds. (1989<sup>2</sup>) *The Oxford English Dictionary*. Second Edition on CD-ROM Version 4.0 (2009), Clarendon Press, Oxford. [OED<sup>2</sup>]
- Takumi, Chiaki & Hiroshi Yonenaga (1995) "Word Formation in Shakespeare: With Special Reference to the Negative Prefixes *in-* and *un-*," *Bulletin of Nara University of Education*, Vol. 44, No.1 (Cultural and Social Science), 69-82.
- 脇本 恭子 (2007) 「Richardson の *Pamela* についての一考察—語形成の面から—」, 『岡山大学教育学部研究集録』, 第134号, 岡山大学教育学部, 119-28.
- (2008a) 「Samuel Richardson に辿る Sentimentalism の源流—語形成の観点から—」, 『近代英語研究』, 第24号, 近代英語協会, 43-74.
- (2008b) 「抽象名詞の複数についての一考察—Richardson の書簡体小説を中心として—」, 『岡山大学教育学部研究集録』, 第138号, 33-43.
- (2009) 「Austen 否定表現から比較する Austen の *Pride and Prejudice* と Richardson の *Pamela*」, 『岡山大学教育学部研究集録』, 第140号, 43-54.
- (2011) 「否定の接辞が作る対義語についての一考察—Richardson の作品を資料として—」, 『ベルシカ』, 第38号, 岡山大学英文学会, 95-109.

オンライン・ソース

BNC:

<http://corpus.byu.edu/bnc/>

Literature Online:

<http://lion.chadwyck.co.uk/marketing/index.jsp>